



「令和5年トルコ地震兵庫県義援金」 の寄贈先・使途



- 過去の海外大規模災害の義援金は1年程かけて寄贈先と使途を決めていたが、**中長期的な支援は、県内団体等の現地での活動経費等を補助するふるさと寄付金制度があるため、現地への即効性の高い支援を図るべく、速やかに使途等を決めることとした。**
- このたび、第2回募集委員会を開催し、**以下のとおり義援金の寄贈先と使途を決定した。**

1 義援金募集状況

作成年月日	令和5年4月6日
作成部局	危機管理部防災支援課

募集期間 : 令和5年2月10日(金)～5月31日(水) 予定 ※2/6に地震発生
 募金総額 : 27,013,850円(4/6(木)時点)

2 寄贈先

土日基金（トルコ現地法人、ひょうごトルコ友愛基金事務局）

[前回H11トルコ地震と同様]

【考え方・理由】

- H11トルコ地震の義援金をもとに県は土日基金と協定を結び義援金約2億円を土日基金に提供。土日基金内にひょうごトルコ友愛基金が設立され、**これまでに、遺児孤児奨学金や防災教育、学生交流等、様々な支援・交流事業を実施し、豊富な支援実績を有している。**
- **これまでの土日基金と密接な連携・交流関係から、円滑な寄贈及び現地ニーズの的確な把握、義援金事業の適切な執行が最も期待できる。**

※ 海外への直接寄贈のため、義援金は税控除対象外となる。

【問合せ先】危機管理部防災支援課防災企画班
 内線5352・直通362-9870



「令和5年トルコ地震兵庫県義援金」 の寄贈先・使途



3 使途

困窮大学生への奨学金

【考え方・理由】

- これまで、現地ニーズ及び義援金の有効な活用法策について土日基金とヒアリング（web）を複数回重ねてきた。
- 土日基金からは、**現地としては困窮大学生の学業継続、復興への即戦力の確保が大きな課題**となっていると聞いており、困窮大学生への奨学金が最も有効な使途と考えられる。

区分	◎困窮大学生の奨学金
対象	親が地震により死亡、失業するなど、学費の確保が困難なトルコ国立大学の学生（中東工科大学、イスタンブール工科大学（特に、建築、まちづくり、防災等専攻）を想定）
期間	卒業まで（夏休み期間を除く年10ヶ月×在籍年数（※継続可否は学業成績に応じて判断））
支給内容	年間の学費相当額(詳細な金額は今後土日基金にて決定) ※土日基金間き取り トルコリラ月2,500リラ（=約125ドル=約17,000円）=年17万円 【現時点での支援可能規模】 2,700万円÷[年17万円×（1～4年）] ÷ 50人
備考	○卒業後社会人として復興まちづくりの即戦力となる。 ○大学にて条件を提示し、合致する学生を選考。